

## 今日の説教のポイント<マタイによる福音書 22 章 1～14 節>

### ①王の婚宴への招きは当り前のことではない。驚くべき恵みへの招待！

王様から王子の婚宴に招かれた人々が自分の畑や商売のことを優先して招待をキャンセルする。それは本来考えられないことです（王と民の身分が絶対的に違う時代はなおさら！）。なのに拒否した人々がいた。なぜか？ 差し出された大きな恵みが分らず、自分が今手にしている恵みの方が大事だと思ってしまうようになってしまっていたからでしょう。しかし、ここで忘れてはならないことは、その畑や商売もその王（神様！）から与えられたものだということです。神様など信じずに生きている現代人にこそ向けられた話と言えるかもしれません。様々な恵みが神様から与えられていることを覚えながら生きて行くこと、行けること。まず神様への立ち帰り！ それが訳されると分かりにくくなる、聖書の「罪の悔い改め（回心）」の意味。人生にとって一番大事なことなのです。

### ②大事なことは、これまでではなく、神様と共に生きる「これから」！

まず先に招かれていた人々とは誰のことを指すのでしょうか？ 神様が先に選ばれたユダヤ人でしょうか？ 神様の招きを拒否したということが救い主イエス様への招きを拒否したことを指すのだとしたら、ユダヤ人の中でもイエス様を受け入れずにむしろ殺そうとした人々を指していることになります。では、その人々に替わってどのような人が招かれたか？ 「町の大通りで見かけた人は誰でも」（9）、「善人も悪人も皆」（10）とあります。これはどういうことを意味するのでしょうか？

善いだけでなく悪い人でもいいということは、招かれる人のこれまでの中に招かれるための条件を捜すのではなく、招くお方が何を考えておられるのかを考えなければならないということです。すると、「婚礼にふさわしい礼服を着て来るかどうか」（11以下）、から見えて来ます。「誰でもいい。しかし、招かれたことを心から喜び、その招きにふさわしい姿で生きていこうとしてくれる人」、神様はそう考えておられるのです。高価な礼服でなくていい。自分のような者を受け入れ、恵みの宴に招いて下さったことを感謝し喜んでいることを精一杯表したい。そういう姿を神様の前に示して生きていく。それが神様からの招きの条件なのです。これまででなく、神様と共にある「これから」が大事なのです！